

第6回 平成28年熊本地震復旧・復興本部会議 次第

平成30年4月16日（月） 9:00～9:20

於：本館5階 知事応接室

1 開 会

2 黙 祷

3 本部長（知事）挨拶

4 くまもと復旧・復興有識者会議の概要報告（知事公室より）

5 復旧・復興プランの進捗状況報告（各部局より）

6 意見交換

7 閉 会

平成30年4月16日

知事公室

第4回くまもと復旧・復興有識者会議の概要について

平成30年4月15日に開催しました標記会議において、有識者の方々から、これまでの震災対応や今後の復興に向けた取組みについて、貴重な御意見をいただきました。

その概要と主な意見については、以下のとおりです。

【概要】

- 震災から2年が経過し、重点10項目に掲げる施策をはじめ、熊本の復旧・復興は順調に進捗している。
一方で、いまだ仮設住宅等で生活されている方々の住まいの再建といった喫緊の課題や、阿蘇へのアクセス道路の回復、熊本城の復旧など中・長期的な課題も残されており、引き続き、「創造的復興」の理念のもとに取組みを進めて欲しい。
- 熊本の更なる発展に向けた創造的復興においては、産業の振興が不可欠であり、点から線、線から面に発展させることが重要である。食産業をターゲットとした農産物の輸出や、空港ネットワークを活用した新産業の創造を、民間と連携して進めて欲しい。
- 震災対応の記録のアーカイブ化や震災ミュージアムについては、震災の記録や教訓を全国に、そして次の世代に伝えていくことが重要である。

【各委員の主な発言】

- 金本委員
阿蘇くまもと空港はコンセッション方式で再建を進められているが、民間にすべて任せるとはならず、民間とどう連携していくか、県としての役割を果たすことが大事である。
- 河田委員
阪神・淡路大震災の被災地である神戸市は、現在、医療産業クラスターの取組みにより経済が伸びている。空港を媒介にしたネットワークを考えてはどうか。また、食産業が重要。熊本の豊かな農産物を世界の都市に届けるといったことが考えられる。
- 古城委員
震災対応の記録のアーカイブ化や、震災ミュージアムの取組みは大切だと思う。うまくいった点だけでなく、何が課題となったか、どうクリアしたかも他地域に発信して欲しい。
- 谷口委員
産業の振興においては、点から線、線から面に発展させることが重要。交通機能など産業集積地に有利な点も十分に活かしながら、熊本をシリコンバレーにするといった構想も期待できる。
- 五百旗頭座長
有識者の皆様から、非常にすどい意見をいただいた。中でも、熊本の更なる発展につながる産業振興については、熊本の資源を活かし、全国、そして世界に挑戦することを真剣に検討してもいいのではないか。
デジタルアーカイブや震災ミュージアムについては、防災教育や交流人口の拡大にも寄与できるよう、新潟県や兵庫県の自治体の事例も参考にしながら、研究機関との連携も進めて欲しい。

熊本地震からの復旧・復興の進捗状況

平成30年4月16日

熊 本 県

1. 「すまい」の再建
2. 災害廃棄物の処理
3. 阿蘇へのアクセスルートの回復
4. 熊本城の復旧
5. 益城町の復興まちづくり
6. 被災企業の事業再建
7. 被災農家の営農再開
8. 大空港構想NextStageの実行
9. 八代港のクルーズ拠点整備
10. 国際スポーツ大会の成功

1. 「すまい」の再建①

○「応急仮設住宅」(H28.11.14建設完了)



■ 整備戸数
16市町村、110団地 4,303戸(うち木造683戸)

[みなし仮設住宅提供戸数(ピーク)15,051戸]

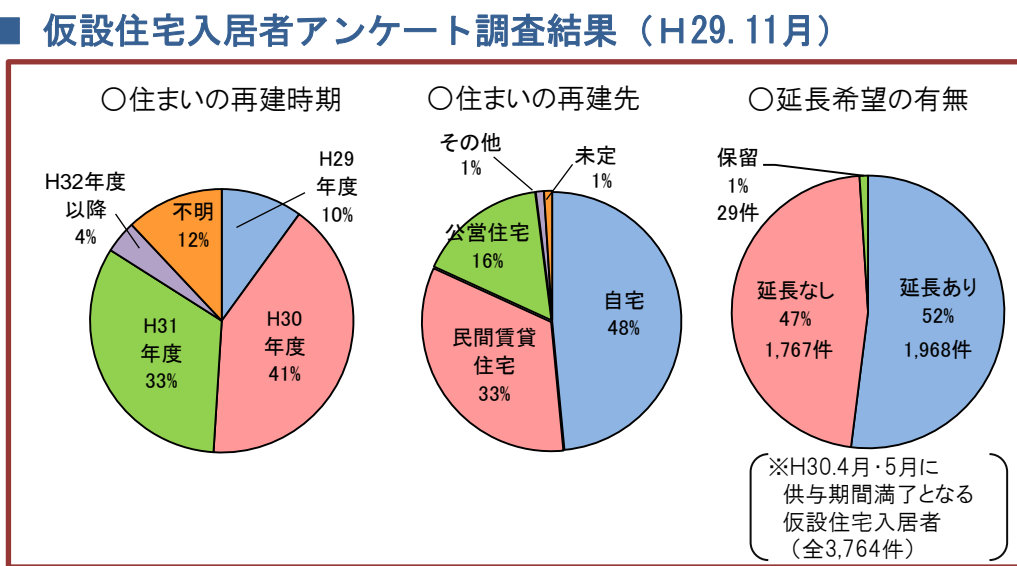
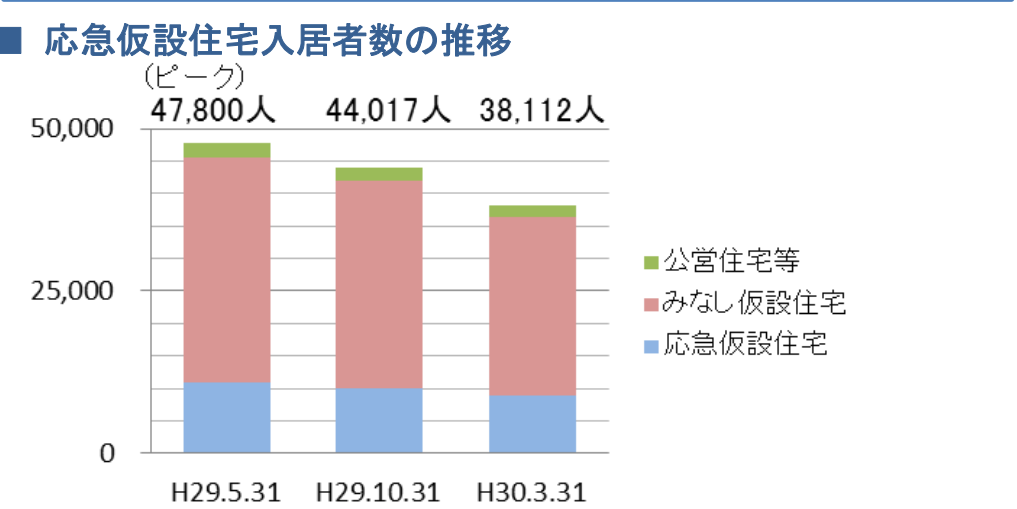
○「みんなの家」(94棟整備) (H30.3月末時点)



■ 仮設住宅入居者の憩いの場等として利用

H30.3月末の仮設住宅等入居者 38,112人

- ・応急仮設住宅 : 3,489戸、8,790人
- ・みなし仮設住宅 : 12,462戸、27,600人
- ・公営住宅等 : 815戸、1,722人



1. 「すまい」の再建②

○「くまもと型復興住宅」



【特徴】

- ① 県産木材使用
- ② 地震に強く、良質
- ③ コスト低減に配慮
- ④ 県内工務店等が建設した木造住宅

【くまもと型復興住宅の普及に向けた取り組み】

- ・モデル住宅 3棟（テクノ仮設団地内）
- ・ガイドブック掲載 60モデルプラン

モデル住宅実績(H30.3月末時点)
 来場者数 約6,700組
 成約・商談 228件(うち、引渡済 66件)

○「住宅耐震化の促進」

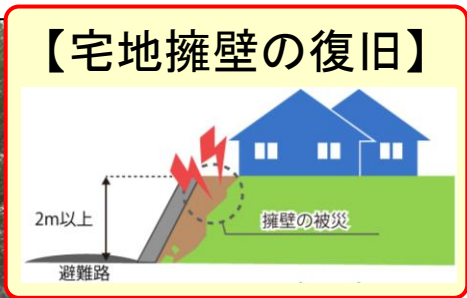
住宅耐震化補助制度を全(45)市町村で創設 (H29.12月)

【補助実績】 耐震診断:1,219件、耐震設計:287件、耐震改修工事:151件 (H30.3月末時点)

1. 「すまい」の再建③

○被災宅地の復旧

公共事業による復旧



御船町
高木

被災宅地復旧支援

復興基金による支援



申請受付件数

2,906件
(27市町村)

※H30.3月末時点

益城町
宮園

1. 「すまい」の再建④

○災害公営住宅の整備

◆西原村山西地区災害公営住宅 45戸 (H30.7月完成予定)



「あんしん」と「あたたかさ」と「ふれあい」のある住宅

◆宇土市宮境目団地災害公営住宅 25戸 (H30.11月完成予定)



■ 住宅の確保が自力では困難な被災者のために整備する公営住宅

整備予定戸数

1,735 戸



整備状況
(H30.3月末時点)

事業着手戸数
(うち、工事着手戸数)

1,049 戸
(309 戸)

【事業着手率】

【 60.5 % 】

1. 「すまい」の再建(4つの支援策)⑤

特徴：再建方法に応じたパッケージ支援(平成29年8月30日公表)

再建を望む
全ての方



(H30.3月末時点)
約3.8万人



自宅再建の場合

【**高齢世帯**】 ※リバースモーゲージ制度

月々の負担 申請件数:5件(3月末時点)

① **15,000円~**

(土地・建物を担保に、返済は利子分のみ)



【**全ての世帯**】 ※子育て世帯を優遇

月々の負担 申請件数:658件(3月末時点)

② **20,000円~**

(一定額まで利子負担ゼロ)



賃貸住宅の場合

※仲介手数料
礼金など

③ **住み替え** 申請件数:907件(3月末時点)

初期費用の助成

全ての
世帯

④ **転居費用**

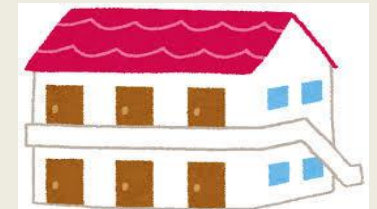
申請件数
5,432件
(3月末時点)

自宅再建



くまもと型復興住宅
建設費 約1,300万円
(税、付帯設備などを含む)

賃貸住宅



公営住宅



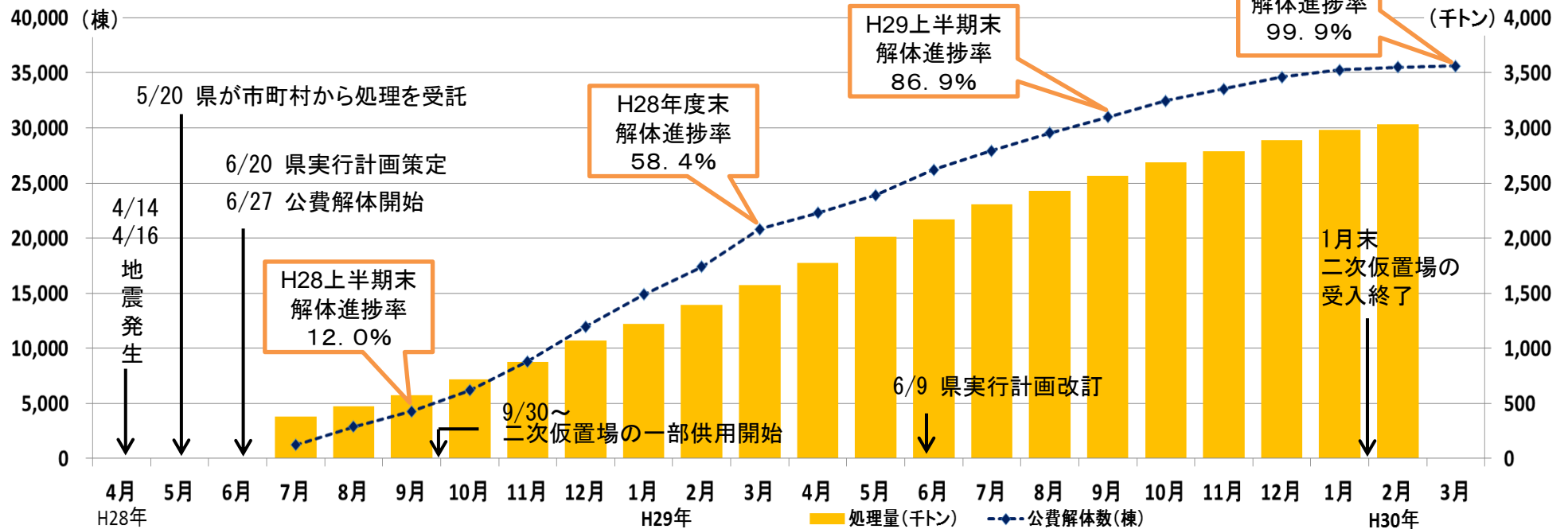
2.災害廃棄物の処理①

○災害廃棄物の処理目標：平成30年4月末（発災後2年間）で完了

◆公費解体の進捗率が99.9%となるなど、2年間での処理完了という目標をほぼ達成。

- ①公費解体済数（H30.3月末）：35,639棟
 解体進捗率：99.9%〔申請受付数35,676棟に対する比率〕
 住民の合意形成に時間を要した被災マンションなど、特別な事情があるものを除く
- ②災害廃棄物の処理量（H30.2月末）：約303万トン
 再生利用率：78.0%〔目標の70%以上を達成〕

【これまでの進捗状況】



2.災害廃棄物の処理②

○仮置場の原状復旧等



県二次仮置場は平成30年1月末で受入を終了し、2月から撤去工事に着手

3. 阿蘇へのアクセスルートの回復①

○国道57号／国道325号阿蘇大橋の早期復旧

写真：国土交通省HPより



①

大規模な斜面崩壊により国道57号、国道325号及びJR豊肥本線が通行不能に



現在

②

国道57号北側復旧ルート

③阿蘇側坑口付近工事状況 H30.1.19撮影



現在

③

平成32年度(2020年度)の開通に向け、復旧工事を施工中

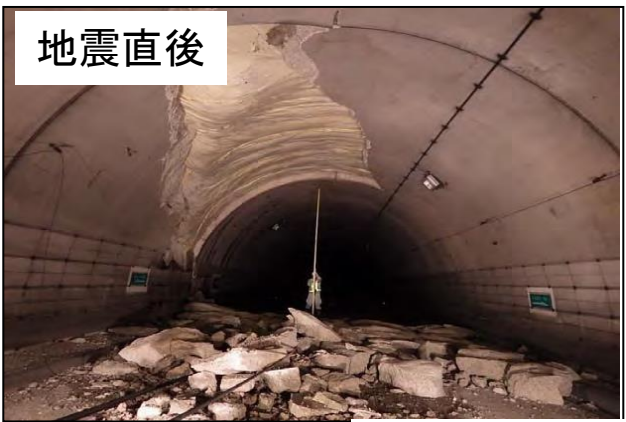
①阿蘇大橋取付部橋脚施工状況 H30.2.2

国道325号新阿蘇大橋

3. 阿蘇へのアクセスルートの回復②

○主要地方道熊本高森線(俵山ルート)の早期復旧

① H28.4.16被災 → H28.12.24 暫定開通 (約8か月で復旧)



開通効果

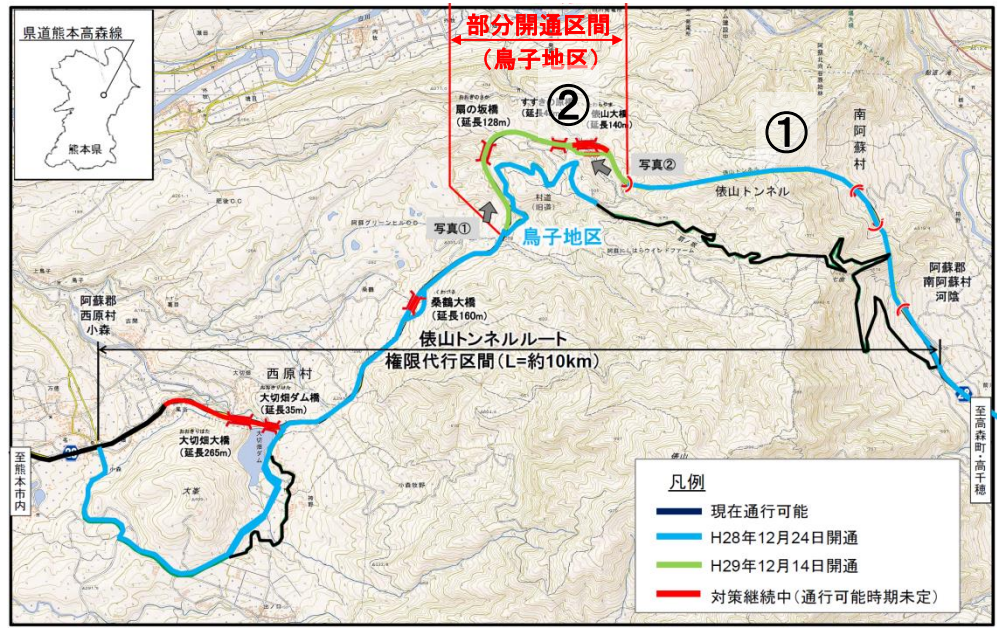
※1カ月後の交通状況より

- ・俵山トンネルルートが約3割増加
- ・主要経路の所用時間が約20分短縮
- ・バス路線の回復により利用者が回復
- ・救急搬送車両の負荷が軽減(横揺れの区間の減少)

写真提供:国土交通省

② H29.12.14 部分開通 (鳥子地区)

図、写真:国土交通省HPより



3. 阿蘇へのアクセスルートの回復③

○村道栃の木～立野線(長陽大橋の復旧)

写真提供: 国土交通省熊本復興事務所

復旧中



開通後



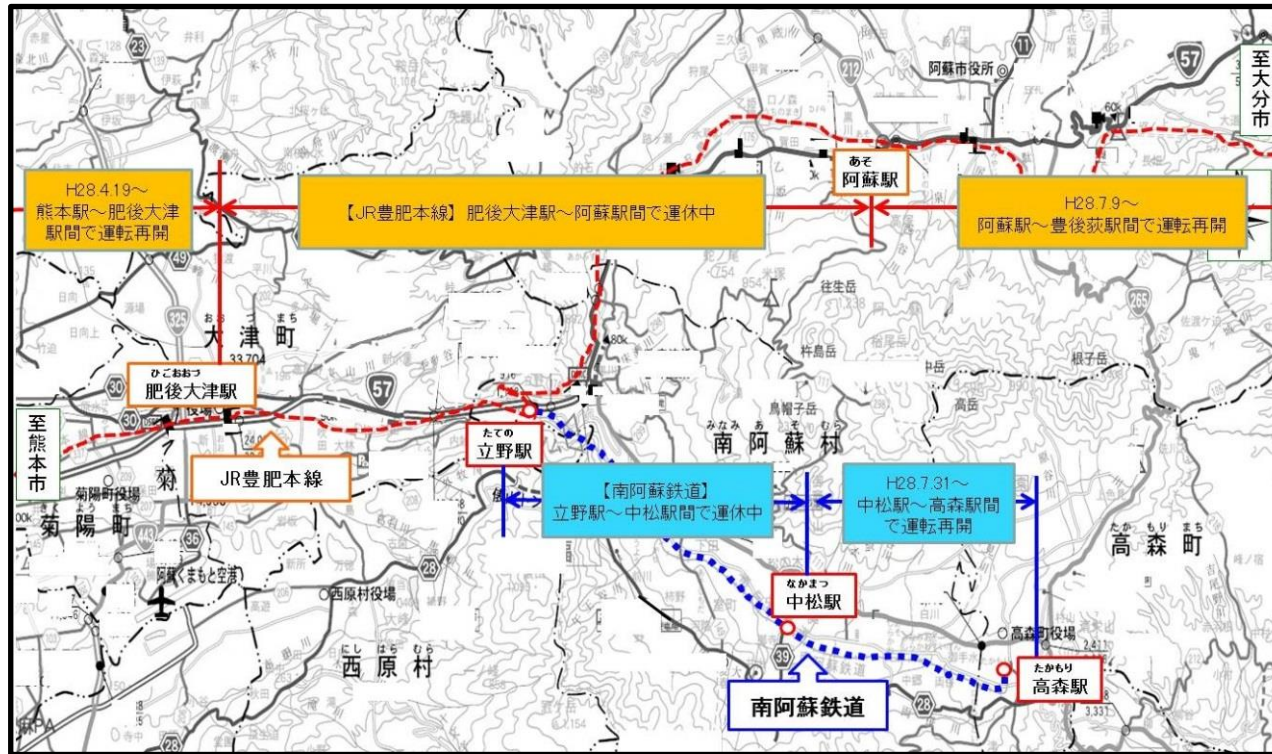
H29.8.27 に暫定開通 (約1年4か月で復旧)

開通効果

- 南阿蘇中心部と立野地区間の大きな迂回の解消
 - ・ 立野交差点～南阿蘇役場間の所要時間が約30分短縮

3. 阿蘇へのアクセスルートの回復④

○南阿蘇鉄道・JR豊肥本線の早期復旧



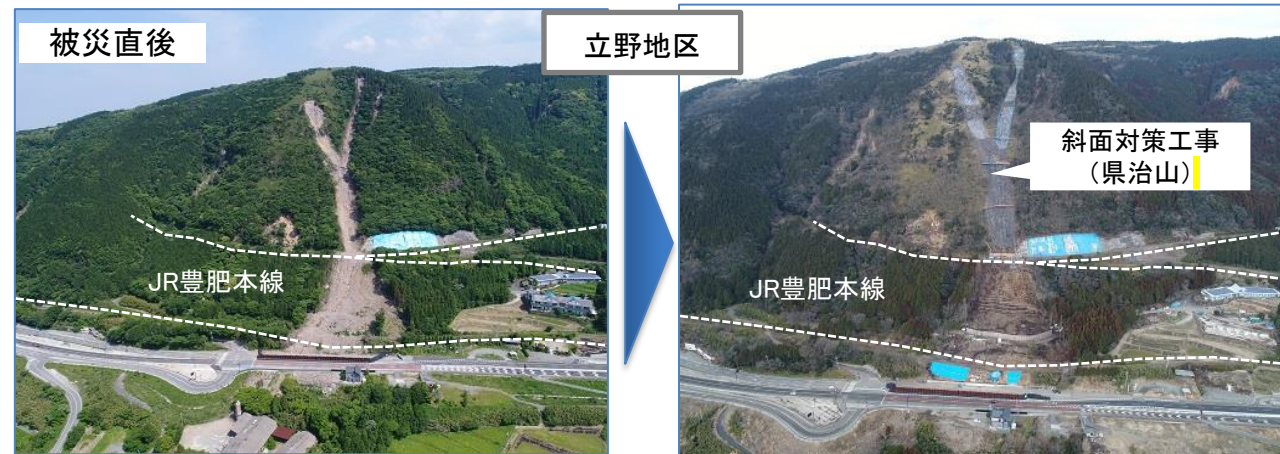
◆南阿蘇鉄道

- ・H29.4 国直轄の災害復旧調査結果公表
 [復旧見通し:5年程度] 見込み
 [復旧費:65～70億円]
- ・H29.4 南阿蘇鉄道再生協議会設立
- ・H29.12 新制度による国の支援決定
- ・H30.3 復旧工事に着工



◆JR豊肥本線

- ・H28.5～ (国) 阿蘇大橋地区の斜面对策工事着手
- ・H29.3～ (県) 治山工事、砂防工事の着手
- ・H29.4～ (JR九州) 豊肥本線復旧事務所設置、工事着手



4. 熊本城の復旧

○天守閣の復旧

2つの国際スポーツ大会が開催される2019年までの大天守外観の復旧を目指し、工事が本格化。
見学通路の早期整備に取り組む。



○北十八間櫓・五間櫓の復旧

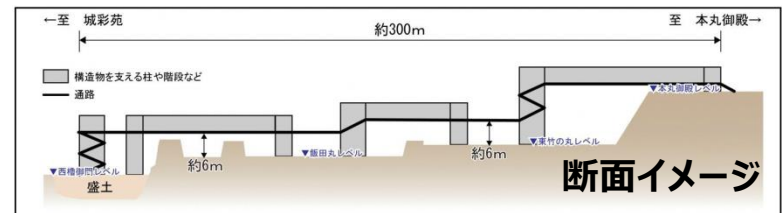
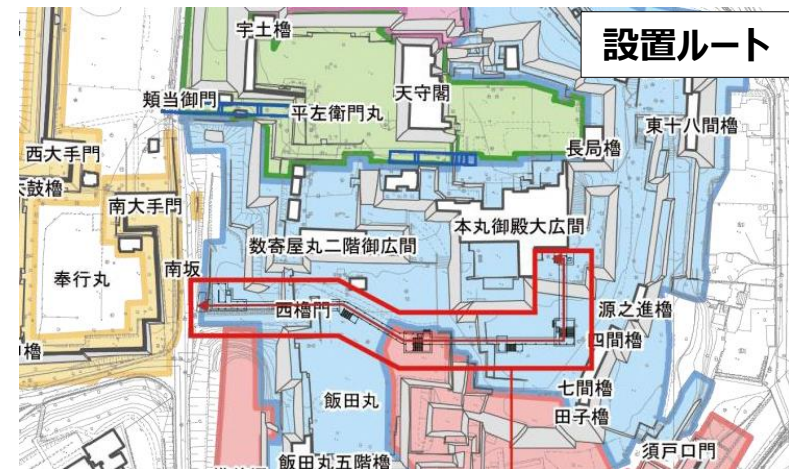


地震直後



現在

○見学通路の設置



5. 益城町の復興まちづくり①

○熊本地震による被災

益城町市街地で甚大な被害が発生

○緊急輸送道路が通行不能

○家屋や宅地の倒壊

など

益城町の
復興まちづくりを
推進



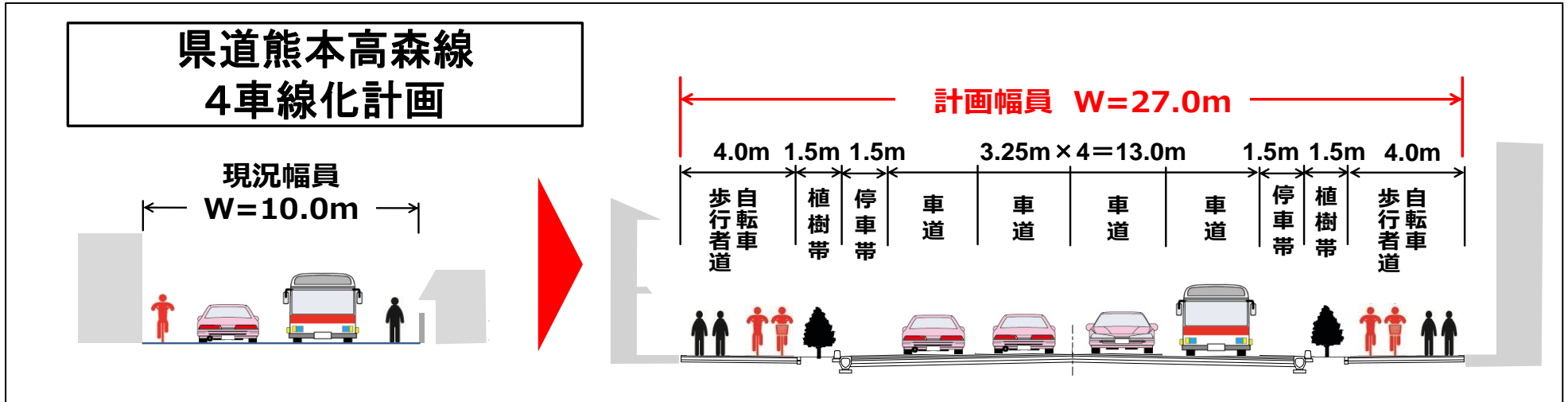
地震直後の熊本高森線状況



地震直後の市街地内の状況

5. 益城町の復興まちづくり②

○復興の加速化(県道熊本高森線の4車線化)



熊本高森線4車線化のイメージ

創造的復興のまちづくりを加速させるため、**H29.10月から用地交渉を開始するなど、取り組みを本格化**

建物調査 実施状況	全体数	調査中	完了
	217件	118件	68件
契約状況	全体数	契約済	
	243名	17名	

※H30.3末時点

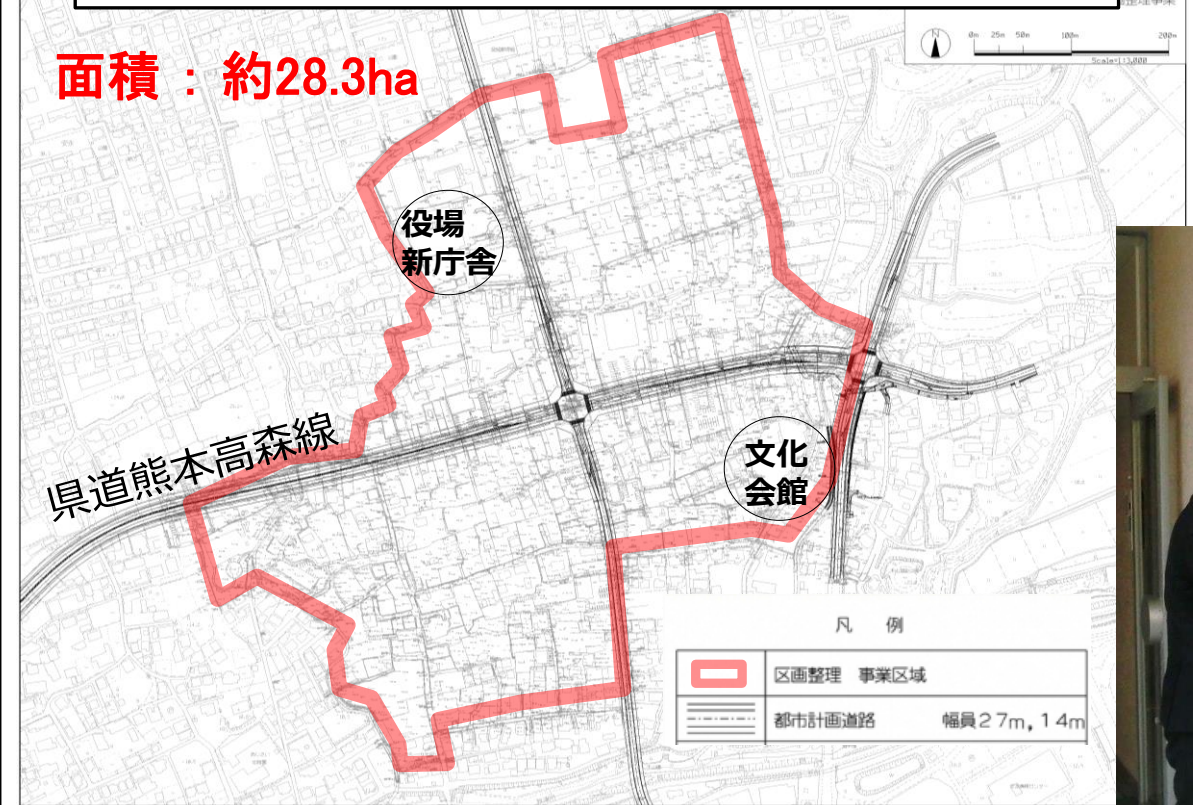
5. 益城町の復興まちづくり③

○復興の加速化(益城中央被災市街地復興土地区画整理事業)

益城町の要望を受け、**県施行による益城中央被災市街地復興土地区画整理事業に着手(H30.3月～)**
都市拠点に相応しいまちづくりを、**益城町と一体となって推進**

益城中央被災市街地復興土地区画整理事業

面積：約28.3ha



県施行に関する
協定締結(H30.3.16)

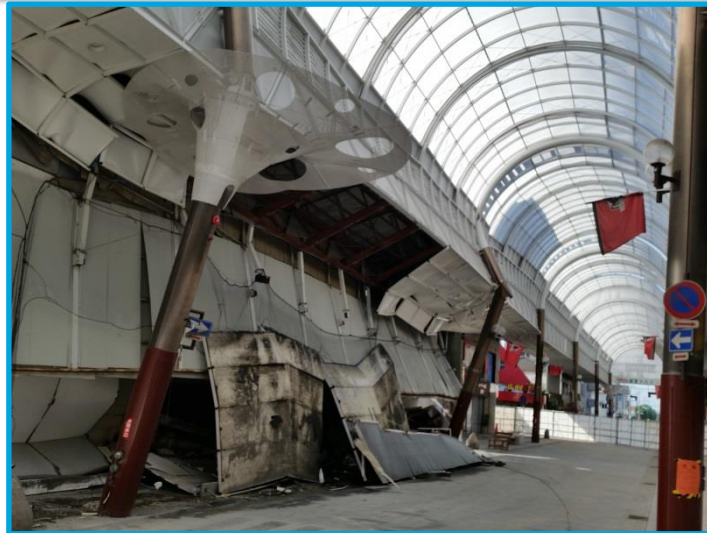
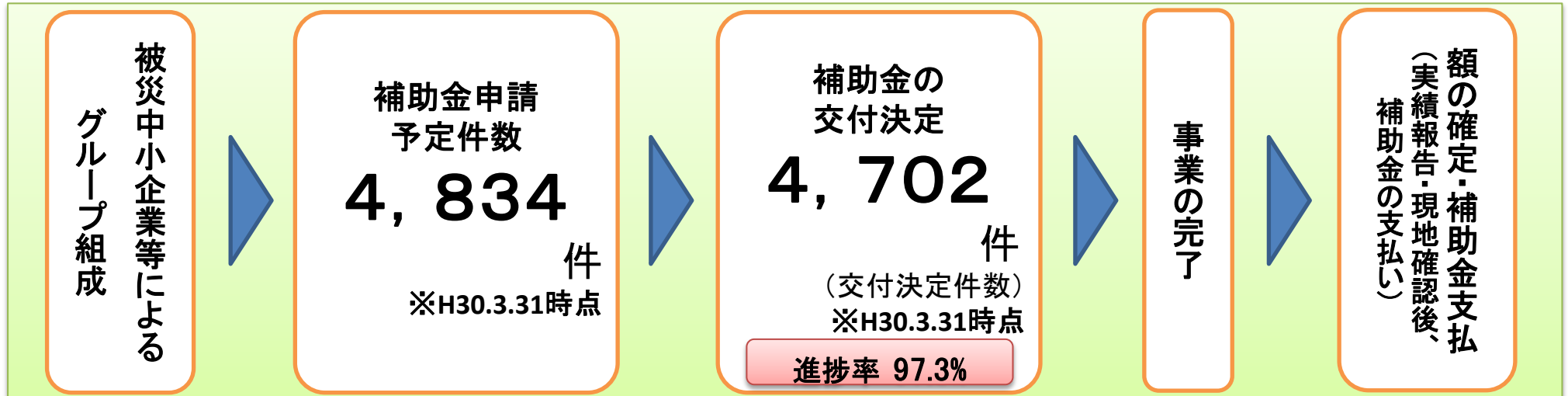


益城復興事務所
開所(H30.4.2)

6. 被災企業の事業再建

○グループ補助金による支援

グループ補助金により、被災した中小企業等の施設や設備の復旧・整備、並びに商業機能の復旧促進を支援



復旧前



復旧後

健軍商店街
における
商業施設

7. 被災農家の営農再開①

○農地・農業用施設の早期復旧(災害復旧事業の推進)

樹園地法面復旧(熊本市)



畜舎の復旧(菊池市)

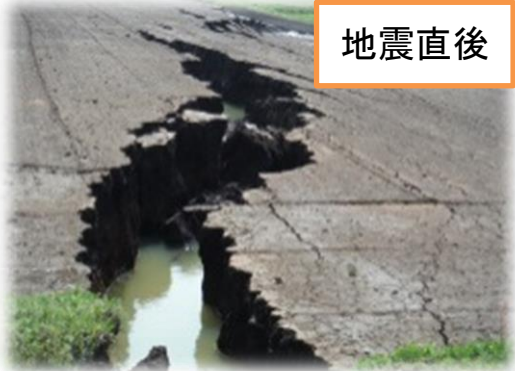


・被災農業者向け経営体育成支援事業により、約1万件の復旧を支援

7. 被災農家の営農再開②

○農地復旧と併せた大区画化や農地集積(＝創造的復興)

農地の地割れの復旧(阿蘇市)



地震直後



復旧中

【阿蘇谷地区】

- ・平成30年から米づくりが再開できるように工事を実施中
- ・農地の客土やあぜを撤去し、大区画化ほ場を被災前の12ha →31haに拡大

農地復旧と併せた大区画化(南阿蘇村)



整備前

完成予想図
(被災農地以外も含む)

乙ヶ瀬地区(南阿蘇村)

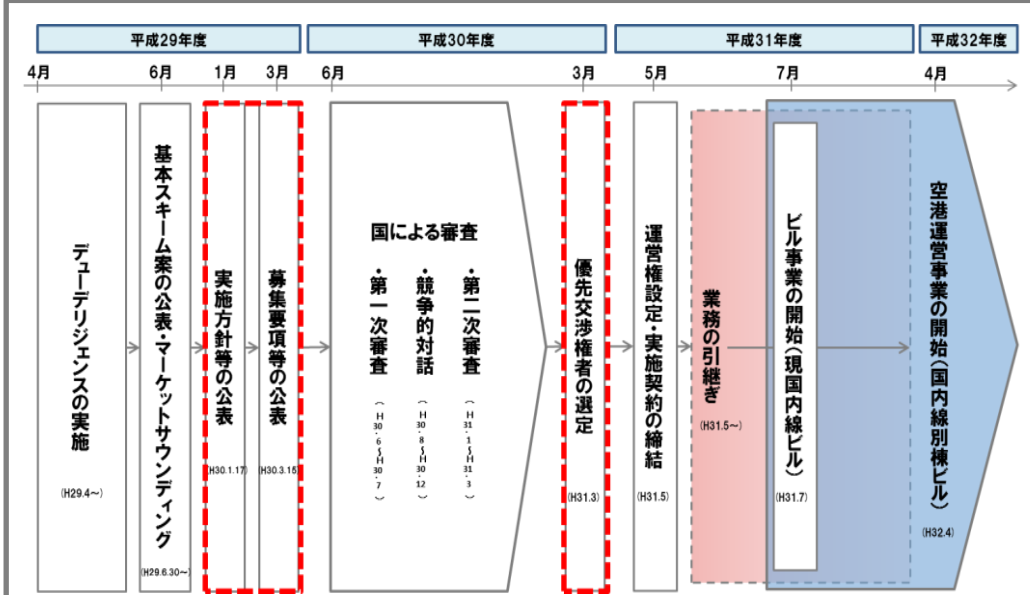
※被災農地の復旧は平成30年度中に完了見込み。
被災農地以外も含めた事業の完了は平成33年度を予定。

◆農地及び農業用施設の復旧を全て完了し、平成31年に営農再開

8. 大空港構想NextStageの実行

○コンセッション方式の導入による空港ビルの創造的復興

国内線別棟ビル及び新国内線・国際線ビルの整備イメージ



■ H28.12月
 阿蘇くまもと空港について、コンセッション方式の導入による国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備・耐震化を表明

■ H30.3月
 募集要項等の公表 (H31.3月 優先交渉権者の決定)

※H32.4月 国内線別棟ビル供用開始予定
 ※H34年度中 新ターミナルビル供用開始予定

9. 八代港のクルーズ拠点整備

○耐震強化岸壁及びクルーズ船専用岸壁の整備



国際クルーズ拠点形成協定 締結式

(H30.2.8)



◆年間200隻程度の寄港実現に向けた環境整備を国、県、船社で連携して実施 [H29(2017)～H31(2019)年度の3年間]

- ・H29.7月：八代港が港湾法に基づく全国6カ所の「国際旅客拠点形成港湾」の一つに指定
- ・H30.2月：県とロイヤルカリビアン・クルーズ社(船社)との間で、クルーズ拠点形成協定を締結

10. 国際スポーツ大会の成功

22

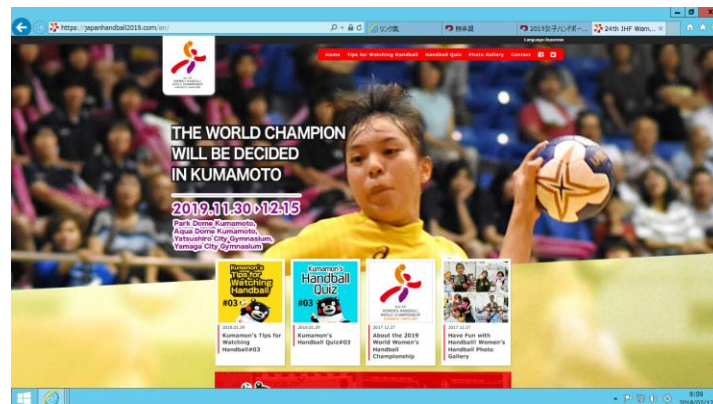
○2019女子ハンドボール世界選手権大会

○キャッチフレーズ決定



○大会ホームページ開設

大会公式キャラクターくまモンによるハンドボール観戦講座など、楽しくハンドボールに親しめる。(日本語及び英語)



○ラグビーワールドカップ2019

○試合日程決定

熊本での開催2試合

・2019年10月6日(日) 16:45～



フランス vs トンガ



・2019年10月13日(日) 17:15～



ウェールズ vs ウルグアイ



○県民総合運動公園陸上競技場の改修 一部完了(座席、更衣室、照明等)



座席改修



熊本地震関連の資料を記録・整理・蓄積し後世に遺す

行政機関、大学、 企業、団体等の 協力を得て収集

- ・被害の実情、避難生活、復旧・復興などを捉えた写真
- ・災害対策本部会議資料など



専用のウェブサイト で公開



利用

- 閲覧
- 利活用(ダウンロード)
 - ・防災、減災対策
 - ・研究、教育



スマートフォンやタブレット
でも利用可能



平成29年4月19日公開開始 ※H30.3月末：約2万点
防災対策や教育への活用もはじまる

【基本コンセプト】

「熊本地震震災ミュージアムの実現に向けた基本方針」(平成30年3月策定)より

- ◆熊本地震の経験や教訓を学び、風化させず確実に後世に伝承する
- ◆今後の大規模自然災害に向けた防災対応の強化を図る
- ◆熊本の自然特性を学び、改めて自然を畏れ、郷土を愛する心を育む
- ◆震災ミュージアムの取組を通して、国内外からの交流人口の拡大を図り、被災地域、ひいては本県の更なる発展につなげる

【回廊型震災ミュージアムのイメージ】

